



宙炭を散布する社員ら

青ネギ生育改善・収量確保へ

【三重・伊勢】JA伊勢の子会社「あぐりん伊勢」は、青ネギの栽培で高機能バイオ炭の実証をスタートした。高温期の品質向上と収量の確保が目的。5月下旬には、メーカーの担当者の立ち会いの下、伊勢市の青ネギ畑20㍓に高機能バイオ炭を散布した。6月上旬に苗を定植し、8月に収穫をして効果を検証する。

高機能バイオ炭 高温対策に一手

JA管内は、青ネギの産地として知られ、県内や関西の市場を中心に年間約500㍓を出荷する。しかし、近年では、夏場に生育不良や葉先の枯れが見られ、高温対策が産地全体の課題となっている。

素貯留や土壌改善の効果が目に見え、土壌に加えることで保水性や肥沃（ひよ）度の向上につながり、猛暑や湿害、病害に強くなつて品質向上や収量の増加が期待される。

実証には、TOWING（トイイング）が開発した高機能バイオ炭「宙炭（そらたん）」を用いる。この資材は、土壌微生物群を定着させた炭で、土壌への炭

昨年度は、厳寒期にこの資材を活用した試験を行い、収量が慣行栽培に比べて28%増加する効果を得ている。

三重・JA伊勢 子会社 20㍓で実証

区と、資材の施用量が異なる試験区を設定した。施用量が少なくても、同等の効果が得られれば、生産者が取り入れやすいと見ている。

同社農産部の澤山和人部長は「一年の間で最も収量の確保が難しい夏場の対策として効果が期待できれば、部会に普及したい。生産者の所得向上につなげていきたい」と話す。